

国名	大韓民国	
事業名	「大田上水道拡張事業（Ⅲ）」	
借入人	大韓民国政府	
事業実施機関	大田市上水道事業本部	
交換公文締結	1989年6月	
借款契約調印	1989年8月	
貸付承諾額	1,434百万円	
貸付実行額	1,210百万円	
事業概要と基金分	<p>本事業は、大田市の上水供給能力を現在（1987年）の40万m³/日から、2001年までに100万m³/日に拡張することを目的とする大田市都市開発マスタープランの第1段階として計画されたもので、大清ダム系統上水事業の第3次拡張計画に相当するものである。本事業は、予測される大田市の浄水能力不足に対応するため、大田市の上水供給能力を40万m³/日から60万m³/日まで拡張するものである。</p>	
主要計画／実績比較	計 画	実 績
○事業範囲：		
(1) 取水施設拡張	取水量 20万m ³ /日	同 左
(中里取水場)	ポンプ 3台	
(2) 導水管敷設	管 径 2,400mm	
	総延長 7.5km	
(3) 浄水場の新設	浄水能力 20万m ³ /日	
(月坪浄水場)	着水井 4箇所	
	混和池 4箇所	
	凝集池 6箇所	
	濾過池 16箇所	
	水 槽 2箇所	
	汚泥処理場 2箇所	
(4) 送配水管敷設	総延長 71.05km	
(5) コンサルティング・サービス	274M/M	261M/M
○工 期：	1987年10月～1991年6月(44カ月)	1987年10月～1992年6月(56カ月)
○事業費：		
外貨分	1,434百万円	1,210百万円
内貨分	54,996百万ウォン	47,528百万ウォン
計	11,058百万円	8,767百万円
(注1) 換算レート：1ウォン=0.175円		(注2) 換算レート： 1ウォン=0.159円

総合評価

- (1) 事業範囲については、月坪浄水場の新設(20万 m^3 /日)、中里取水場の拡張(10万 m^3 /日 \Rightarrow 30万 m^3 /日)、両者を連結する導水管および市内送配水管の敷設工事が当初計画通り実施されている。
- (2) 工期については、当初計画の1991年6月から1年遅れの1992年6月に完成している。これは大田市が直轄市に指定された(1989年)ことに伴い、新たに新灘浄水場と大徳浄水場が大田市の行政区域に含まれたことから、大田市の浄水能力に余裕が生じ、敢えて事業進捗をスローダウンさせた結果であると報告されている。
- (3) 事業費については、当初計画時の外貨分1,434百万円、内貨分54,996百万ウォンに対し、実績では外貨分1,210百万円(対計画比85%)、内貨分47,528百万ウォン(対計画比86%)となっている。外貨分、内貨分ともに15%程度のコストアンダーランとなっているが、これは、資機材の調達に激しい国際競争の下、低価格で落札されたこと、舗装修復費の節約や土地収用費の減少等によるものである。
- (4) 実施体制については、実施機関が過去2回の円借款事業を経験していることもあり、資機材の入札～調達、施工等ほぼ予定通り実施されていることから、総合的に判断して良好であったものと考えられる。
- (5) 本事業は、1992年から部分的な操業を開始し、1994年から完全操業を行っており、大田市全体の給水量の約3割に相当する量を供給している。また、運用・維持管理体制についても、施設の運転自動化・無人化、警備体制の改善等により経営合理化に取り組みつつ、職員を対象とした研修制度の充実により水道サービスの維持向上に努めている。

事業効果

本事業による効果として、水道事情の改善(水道普及率:86 \Rightarrow 91%、1人1日当たり給水量:290 \Rightarrow 395人/日、1987年と1992年の比較)による市民の日常生活における利便性の向上が挙げられる。これは、生活水準の向上に伴う上水消費水量の増加に対応するものである。また、下水処理施設の普及(別事業)と相まって、1990年以降、コレラ、チフス等の伝染病は発生しておらず、公衆衛生面の改善にも寄与していると言えよう。

(備考)

評価報告日:1995年1月(現地調査:1994年9月)